令和５年度　防災・BCP実務研修会

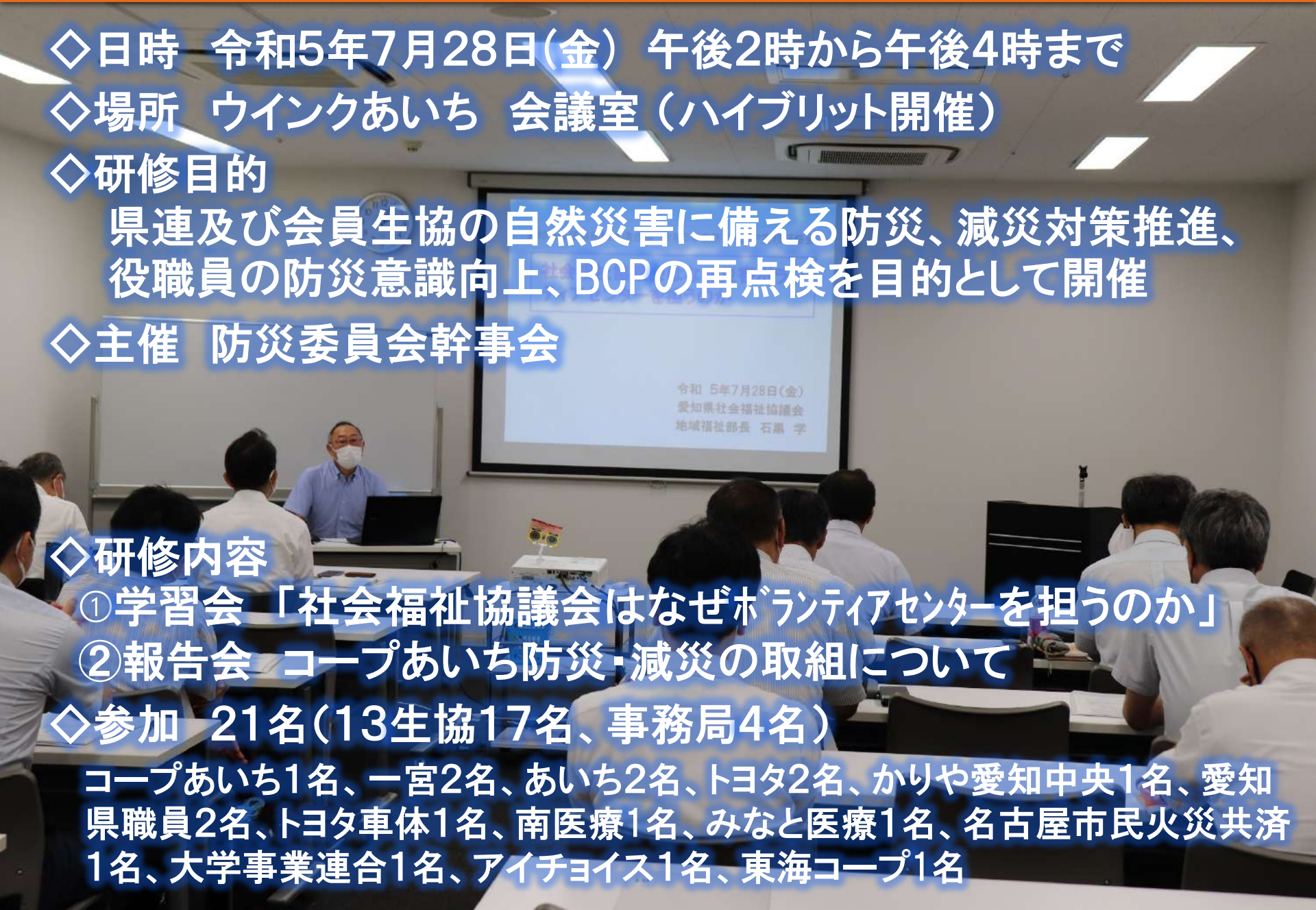
◇日時　令和5年7月28日（金）　午後2時から午後4時まで

◇場所　ウインクあいち　会議室（ハイブリット開催）

◇研修目的

県連及び会員生協の自然災害に備える防災、減災対策推進、役職員の防災意識向上、BCPの再点検を目的として開催

◇主催　防災委員会幹事会



◇研修内容

①学習会　「社会福祉協議会はなぜボランティアセンターを担うのか」

②報告会　コープあいち防災・減災の取組について

◇参加　21名（13生協17名、事務局4名）

コープあいち1名、一宮2名、あいち2名、トヨタ2名、かりや愛知中央1名、愛知県職員2名、トヨタ車体1名、南医療1名、みなと医療1名、名古屋市民火災共済1名、大学事業連合1名、アイチョイス1名、東海コープ1名

◆学習会

「社会福祉協議会はなぜボランティアセンターを担うのか」

＜講師　：　愛知県社会福祉協議会　石黒　学　様＞

①日本の大災害におけるボランティア活動

・全国各地の災害発生を契機に、行政・社協・NPO・ボランティア等が連携・協働した活動に発展

→全国災害ボランティア支援団体ネットワーク発足（JVOAD）

②社会福祉協議会の歴史

・明治41年 中央慈善協会発会、初代会長 渋沢栄一

・昭和24年 GHQと厚生省との合意書により全国で組織整備

・昭和26年 中央社協・都道府県社協・市町村社協結成

・昭和56年 市町村社協法制化

→機能（地域福祉、相談・権利・擁護、介護・生活支援）

→全国社会福祉協議会8ブロック・愛知県6ブロック

ブロック内で相互応援協定等を締結

③愛知県における災害ボランティア活動の整備

・防災のための愛知県ボランティア連絡会設立（平成10年）

・愛知県と協定締結

「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの受入体制の整備とﾈｯﾄﾜｰｸ化の推進等に関する協定書」

・行政が災害ボランティアセンター設置、社協が運営（公設民営型）

→運営三原則は、「被災者中心」「地元主体」「協働」

④愛知県内での課題（私見）

・支援体制が整っていない市町村あり

・計画・協定・マニュアル等の形骸化

・実行可能なシステムになっているか

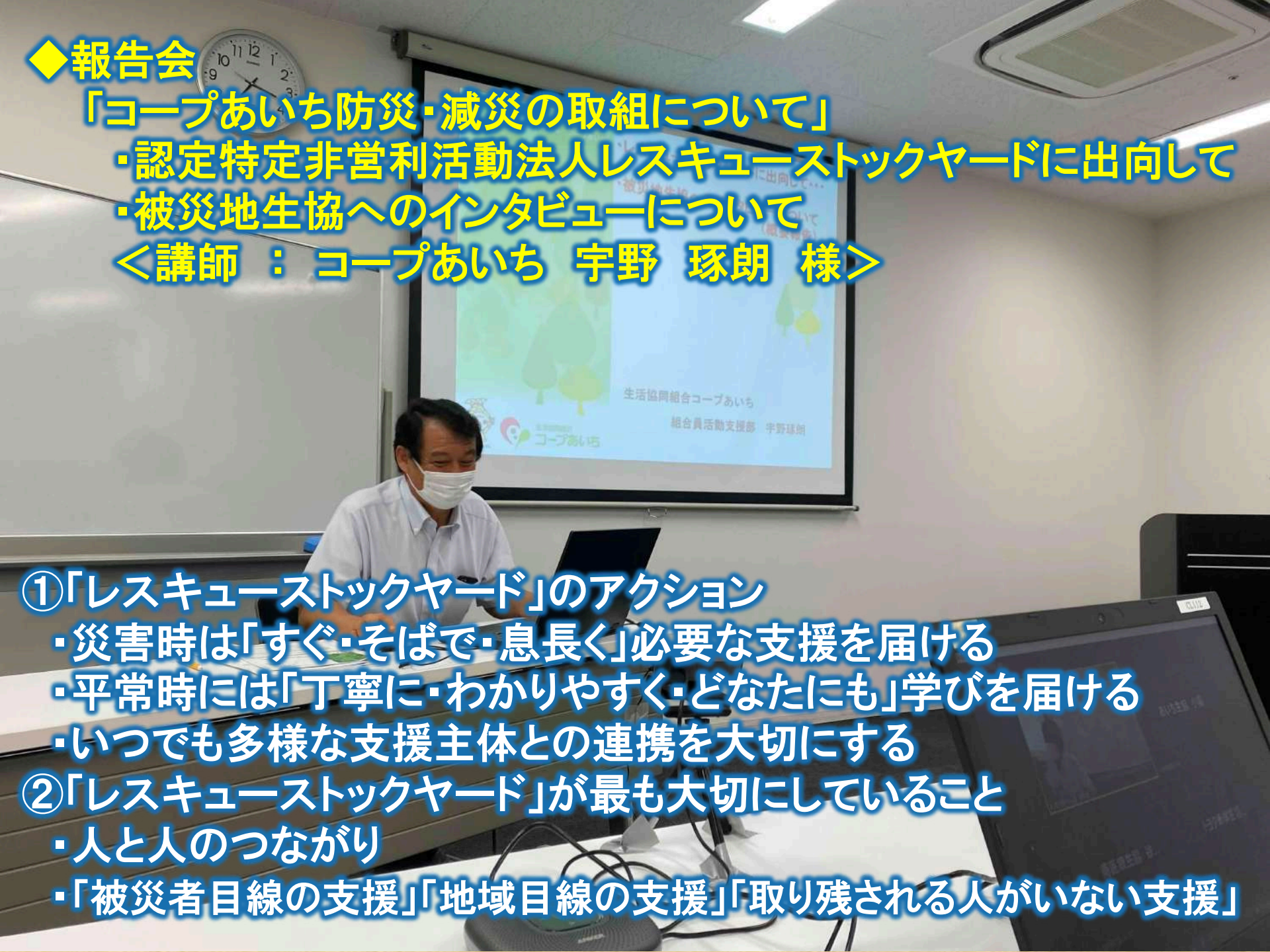
・コーディネーター・運営スタッフの確保

・受援力の理解（地域の理解、担い手の理解）

・車中泊、テント泊、指定外避難所等の想定と支援策

⑤今後の災害への備え

・「行政」「災害VC(社協)」「NPO等」の三者連携強化



◆報告会

「コープあいち防災・減災の取組について」

・認定特定非営利活動法人レスキューストックヤードに出向して

・被災地生協へのインタビューについて

＜講師　：　コープあいち　宇野　琢朗　様＞

①「レスキューストックヤード」のアクション

・災害時は「すぐ・そばで・息長く」必要な支援を届ける

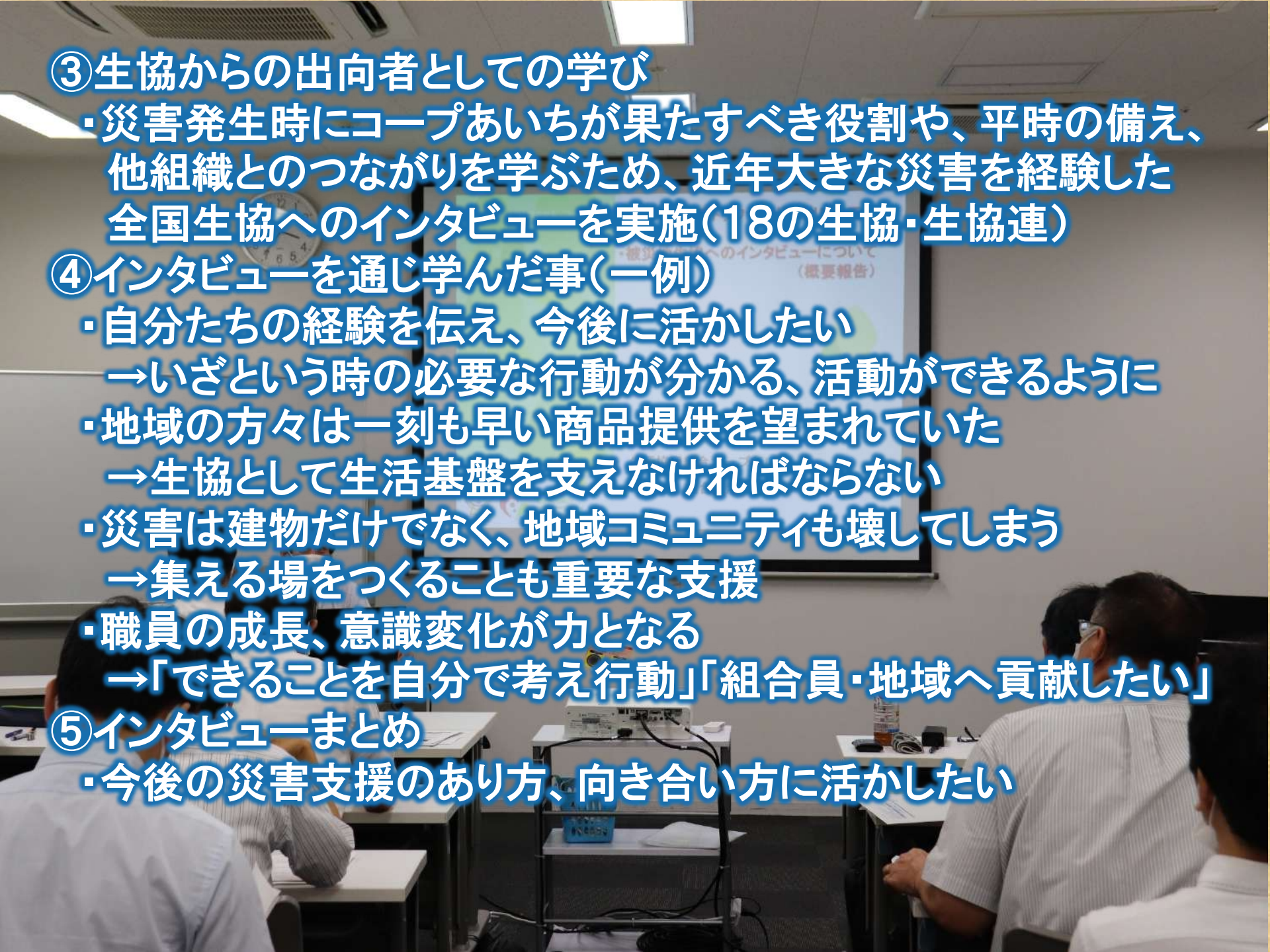
・平常時には「丁寧に・わかりやすく・どなたにも」学びを届ける

・いつでも多様な支援主体との連携を大切にする

②「レスキューストックヤード」が最も大切にしていること

・人と人のつながり

・「被災者目線の支援」「地域目線の支援」「取り残される人がいない支援」



③生協からの出向者としての学び

・災害発生時にコープあいちが果たすべき役割や、平時の備え、他組織とのつながりを学ぶため、近年大きな災害を経験した全国生協へのインタビューを実施（18の生協・生協連）

④インタビューを通じ学んだ事（一例）

・自分たちの経験を伝え、今後に活かしたい
　→いざという時の必要な行動が分かる、活動ができるように

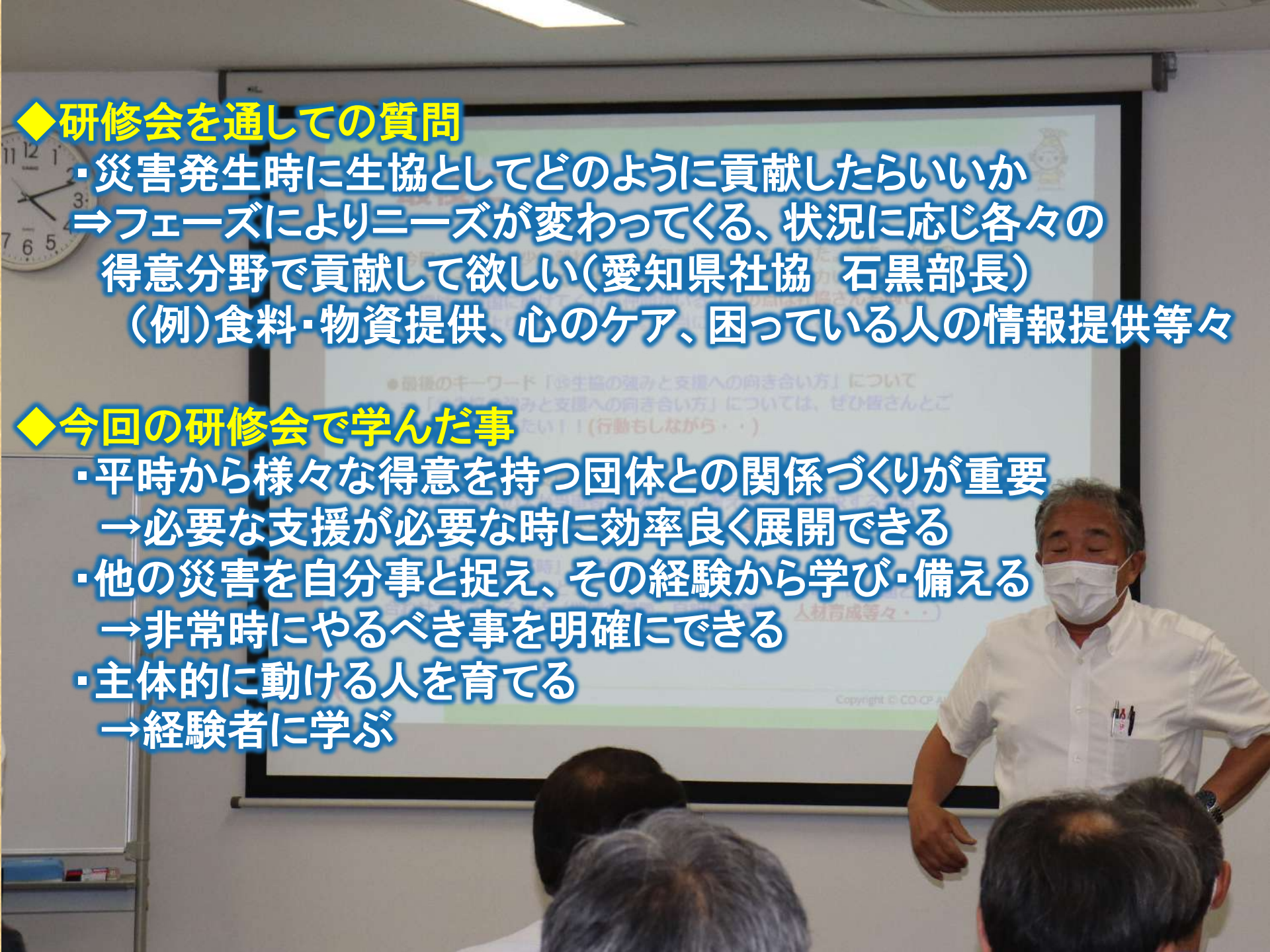
・地域の方々は一刻も早い商品提供を望まれていた
　→生協として生活基盤を支えなければならない

・災害は建物だけでなく、地域コミュニティも壊してしまう
　→集える場をつくることも重要な支援

・職員の成長、意識変化が力となる
　→「できることを自分で考え行動」「組合員・地域へ貢献したい」

⑤インタビューまとめ

・今後の災害支援のあり方、向き合い方に活かしたい



◆研修会を通しての質問

・災害発生時に生協としてどのように貢献したらいいか
⇒フェーズによりニーズが変わってくる、状況に応じ各々の得意分野で貢献して欲しい（愛知県社協　石黒部長）
（例）食料・物資提供、心のケア、困っている人の情報提供等々

◆今回の研修会で学んだ事

・平時から様々な得意を持つ団体との関係づくりが重要
→必要な支援が必要な時に効率良く展開できる
・他の災害を自分事と捉え、その経験から学び・備える
→非常時にやるべき事を明確にできる
・主体的に動ける人を育てる
→経験者に学ぶ